

## 平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語 114人	社会 114人	数学 114人
	理科 114人	英語 114人	

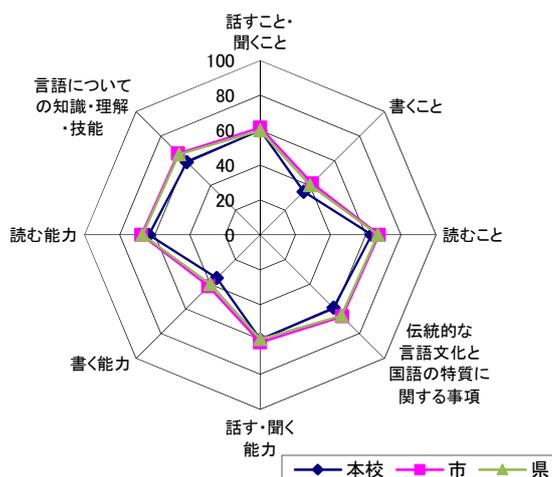
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	60.0	61.6	59.9
	書くこと	35.0	41.7	40.1
	読むこと	63.4	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.1	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	60.0	61.6	59.9
	書く能力	35.0	41.7	40.1
	読む能力	63.4	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	59.1	66.1	65.4



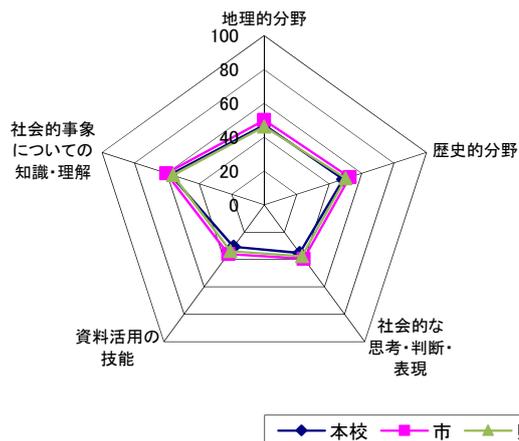
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均よりは下回るものの、県の平均と同じくらいの状況である。</li> <li>○話すこと、聞くことに対する意欲と態度は身につくつつある。</li> <li>●話をすること、話を聞くこと、のポイントのとらえ方が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・意欲と態度が身に付きつつあることは良い傾向である。「話す・聞く」の単元の指導を強化し、ポイントを絞ってわかりやすい授業を行う。</li> <li>・長期休業明けに一分間スピーチを取り入れ、話題の提示から、自分の意見や考えを述べるパターンを指導し、学習内容に取り入れる。</li> <li>・聞くときにメモをとらせ、5W1Hを聞き取る基本的な学習内容を取り入れて指導を行う。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県、市の平均よりも低い状況である。</li> <li>●無解答は減ったものの、「作文が書けない」という意識が強く、パターンを教えても「苦手だからできない」という生徒が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の単元の指導を強化し、さまざまな意見文の書き方のパターンを指導し、丁寧に指導を行う。具体的には、以下のように具体的な書くことの技術指導を行う。</li> <li>①構成を意識せずに、短い文を書かせ、書くことの抵抗を和らげる指導を行う。</li> <li>②「自分の考え 明確な根拠 まとめ」の3段落構成を基本として、構成を意識した文章を書かせる。</li> <li>③誰が読むのかという相手を意識した文章を書かせる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県、市の平均よりも低い状況である。</li> <li>●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く、無解答も多く見られる。</li> <li>●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く長文を読むだけで精一杯で、ポイントが絞れずさらにわからなくなるという悪循環が起こっている。</li> <li>○小説などの読解は平均的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章読解のポイントを絞り、ドリル形式で授業に取り入れる工夫をした授業を行う。</li> <li>・内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。その課程を積み重ねることにより、批判的読解力を育成する。</li> <li>・小説などの、心情を追うことは好きな生徒が多いので、伏線に気をつけて読み取らせるなど、テスト問題を意識した読み取り方も指導を強化する。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県、市の平均よりも低い状況で、他の領域に比べても低い。</li> <li>●語彙力が低く、言葉を的確に使うことができない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力を定着させるために、ほぼ毎日漢字ノートを課題として出しているの、さらに定着を確認するための定期的なテストを実施していく必要がある。(現在よりも増やして確認をする)</li> <li>・語彙力を高めるために、ことわざや慣用句、文法などの単元では、特に丁寧に指導を行い、個別指導にも力を入れていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	47.1	50.0	46.2
	歴史的分野	48.7	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	35.2	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	30.7	35.9	33.8
	社会的な事象についての知識・理解	57.9	60.4	56.3



## ★指導の工夫と改善

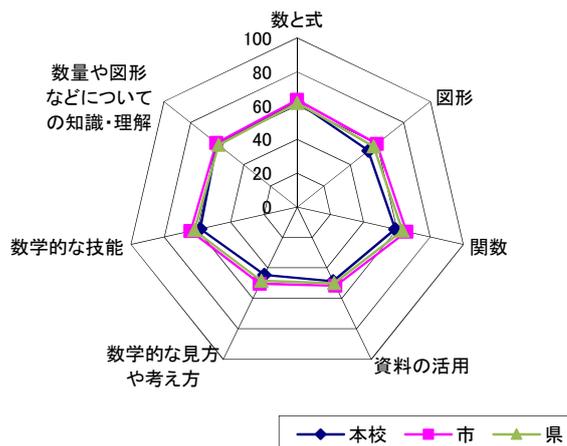
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○地理的分野は、市平均よりは低いですが県平均を上回っている。 ○知識・理解は市・県平均より高い</p> <p>●記述式解答の部分において最も正答率が低い が、短答式・選択式も正答率が市・県平均より低い。 ●記述式については無回答の割合も20%を超える項目がある。</p>	<p>・前時の復習を毎時間最初に取り入れ、基礎的な知識や語句の定着をはかる。 ・地図の読み取りなど、技能の面ではワークやプリントを解く時間もとるようにし、生徒が苦手とする部分の説明などをしていく。 ・グラフの読み取りについて、デジタル教科書などを使用し丁寧に説明をしていく。 世界の国々やこれから学習する日本の地域について、地図帳や資料集で確認することを徹底していく。</p>
歴史的分野	<p>○歴史的分野では、ほとんどの領域で市平均・県平均より下回ったが、社会的な事象についての知識・理解は県平均より高い。</p> <p>●地理的分野より総合的に見て達成率が少し低い。 ●知識・理解は比較的高いが、「社会的な思考・判断・推理」、「資料活用 of 技能」の領域については低めの傾向にある。 ●地理的分野同様、記述式の問題について正答率が低く、また無回答の割合が高い。</p>	<p>・前時の復習を毎時間最初に取り入れ、基礎的な知識や語句の定着をはかる。 ・記述式の問題について改めて時間をとり、書き方の指導をしていく。 ・教科書の資料や図について状況を説明するだけでなく、自ら考えたり推察する時間を設け、発表をすることをしながら資料についての理解を深めていく。 ・歴史的分野においては特に流れが重要であるととらえ、板書なども工夫し流れがわかるような授業をしていく。</p>

# 宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.1	63.3	61.5
	図形	53.5	59.8	57.4
	関数	59.0	65.9	63.4
	資料の活用	48.7	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	44.5	50.4	48.5
	数学的な技能	58.4	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	60.4	60.6	58.9



## ★指導の工夫と改善

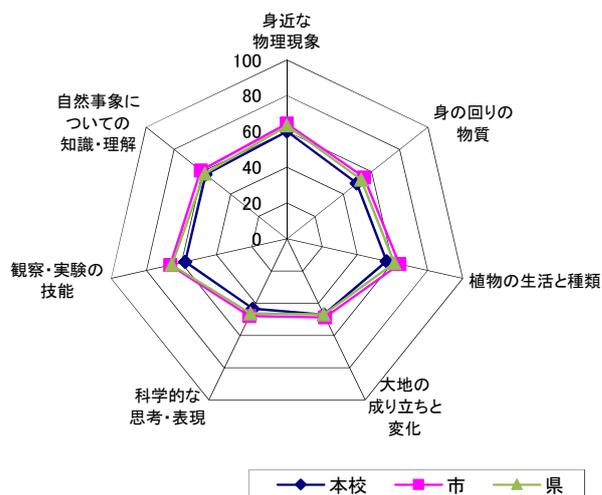
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率について、県平均と比べると+0.6ポイント、市平均と比べると-1.2ポイントであった。</p> <p>○正負の数の基礎的な計算力が身につけてきている。また、文字と数の区別が付き、文字と式の計算についても基礎的な計算力が身につくつある。</p> <p>●分数を含む計算や、自ら立式し目的に応じて式を変形する問題に対して課題がみられる。</p>	<p>・分数を含む計算の機会を増やし、計算方法に慣れさせていく必要がある。また、誤答例を取り上げ、計算過程を振り返りながら、どこに誤りがあるかを見出し、正しい計算の仕方を確認する。</p> <p>・立式の手順を考え、その手順を考察する活動を取り入れる。また、意図した結果が得られなかった場合には、どこを修正すればよいのかを振りかえることで、解の吟味の有用性を確認する。</p>
図形	<p>平均正答率について、県平均と比べると-3.9ポイント、市平均と比べると-6.3ポイントであった。</p> <p>○線対称・点対称といった言葉の意味の定着は図られている。また、求積する際の基本的な公式は身につけている。</p> <p>●空間的なものの見方に課題が見られる。ねじれの位置を考えたり、回転体の表面積、体積を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・空間図形について、見取図のみの考察で終わるのではなく、身近な立体を見たり、実際に触れたりしながら、様々な方向や視点から空間図形を観察し、辺や面の位置関係を理解できるようにする。</p> <p>・回転体や複雑な立体の求積の指導に関しては、その図形が成り立つ場面をコンピュータ等を活用し見せることで、知っている立体の組み合わせになっていることを理解させたい。</p>
関数	<p>平均正答率について、県平均と比べると-4.4ポイント、市平均と比べると-6.9ポイントであった。</p> <p>○数の変化から比例の関係になっているのか、反比例の関係になっているのかを判断する力は身につくつある。</p> <p>●文字を使って式に表したり、グラフにすることに課題が見られる。</p>	<p>・伴って変化する2つの数量が何かを確認する作業を通して、文章題から変化の仕方に気づき、式を立てる練習をする必要がある。</p> <p>・グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、グラフからxとyの関係を式で表すことができるよう、繰り返し練習する。</p>
資料の活用	<p>平均正答率について、県平均と比べると-1.4ポイント、市平均と比べると-3.0ポイントであった。</p> <p>○度数や平均を求める技能は身につけている。</p> <p>●相対度数や階級値といった用語の意味と求め方の定着が図られていない。</p>	<p>・中学生となり学習した用語についての理解が不十分であった。練習不足が原因である。学習してからの期間の間に十分な演習量を確保できるように、授業を計画し確実な理解と定着が図れるようにしていく。</p>

# 宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	60.0	64.3	63.2
	身の回りの物質	49.6	54.8	52.8
	植物の生活と種類	56.7	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	47.1	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	43.5	48.0	46.4
	観察・実験の技能	57.9	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	57.7	61.1	58.3



## ★指導の工夫と改善

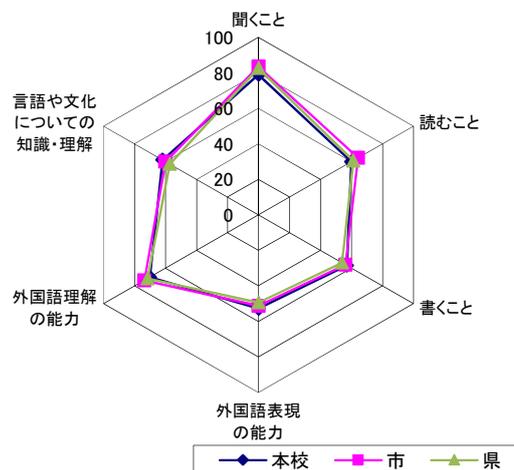
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>身近な物理現象における平均正答率は、市・県に比べ3～4ポイント低い。</p> <p>●光・音・力と圧力ともに平均より低いポイントとなっている。特に光の反射の作図と力の矢印での表し方ができていない。作図や力の表し方はその方法・概念が曖昧のままになっていると考えられる。</p> <p>○凸レンズについては平均より高い結果となっていた。</p>	<p>・光音については日常生活と結びつけられる面を持っているので、今後も復習の意味を込めて授業で取り上げる。作図はやはり忘れてしまうことが多いので、主なものを復習プリントを作成し、実際に書き込み確認する。</p> <p>・振動数のような理科用語は、生徒の会話に出てこない内容なので、再度重要用語を洗い出し、意図的に授業で使用する。</p>
身の回りの物質	<p>身の回りの物質における平均正答率は、市・県に比べ3～5ポイント低い。</p> <p>●水溶液では濃度の計算が苦手である。また、濃度やグラフ・モデル化に関しては下位層でほとんどできない傾向がある。</p> <p>○気体の性質など興味をひく内容では正答率も上がる。やはり理科は実験や観察が面白い、楽しいといった面を与えられれば理解や記憶につながるようである。</p>	<p>・濃度やグラフなどは、数学科とも関りが深いので、生徒の実態を再度確認したうえで、数学科とも協力してわかる授業を展開する。</p> <p>・評価方法を工夫し、つまづきを早期に発見し、間違えやすい内容や不明な点について、基本的な問題演習を行い、全体のレベルアップを図る。</p> <p>・今後も実験を通して理解できる内容は実験方法をさらに工夫して理解確認ができるようにする。</p> <p>・モデル化については、2学年の化学変化と分子・原子でも取り上げるので再度1学年の内容と系統性を持たせて指導する。</p>
植物の生活と種類	<p>植物の生活と種類における平均正答率は、市・県に比べ4～7ポイント低い。</p> <p>●スケッチの方法・蒸散の実験での理由説明・シダの特徴の問題でかなり低い結果となっている。また、この単元は上位層と下位層の正答率の差が大きく、生徒は学習内容を忘れてしまっていることが推察される。</p>	<p>・動物の分野が終了したところなので、植物・動物分野の忘れがちな内容や誤解しやすい内容を復習として実施する。学習プリントを準備し、家庭学習として実施する。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>・4つの分野の中では、比較的市・県に近い正答率が出た分野である。おそらく学習内容を比較的忘れずにいたと推察される。</p> <p>○地層の重なりと過去の様子では、市・県よりも少し高いポイントとなっている。</p> <p>●観察の結果や図表を基に推測する問題では市・県よりも約10ポイント程度低い。これは、まさしく理科での科学的思考力を問われるものであり、本校生徒の弱点と考えられる。また、この分野でも上位層と下位層の差が大きく、地震や火山は興味を持てるものの、理解には結びついていない面を持っている。</p>	<p>・下位層との差を解決するために、グループ学習を取り入れ、科学的な思考・考察をまとめることが苦手な生徒への個別アドバイスをを行う。</p> <p>・問題となる科学的思考力の向上では、考え方をわかりやすく時間をかけて指導し、実際に考え、考えたことをまとめる時間を確保し、それを評価する。</p>

# 宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	79.0	83.6	82.6
	読むこと	59.9	64.2	61.2
	書くこと	57.0	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	52.7	51.2	49.4
	外国語理解の能力	70.1	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	62.0	60.1	57.3



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●聞くことに対する平均正答率は県と比べ3.6ポイント、市と比べ4.6ポイント下回っている。</li> <li>○対話文の内容理解は大まかにできている。</li> <li>●疑問詞を用いた疑問文に適切な応答をするという問題での正答率が低い。</li> <li>●複雑な文法や単語を含んだ英語や流暢な英語を聞くことに苦手意識をもっている生徒も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で英文を聞く機会を増やしているので今後も継続する。</li> <li>・シンプルな単語を使ってゆっくりとした速度で英語を話したり、授業のはじめにICTなどを併用しながらオーラルイントロダクションを取り入れたり、コミュニケーション活動の中で、相手の話している内容を理解したりするようなものを意図的に取り入れていき、自然と英語を聞いていけるようにする。</li> <li>・授業の最初に、簡単な英語スピーチを取り入れ、生徒同士で英語を聞く機会を増やす。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読むことに対する平均正答率は県と比べ1.3ポイント、市と比べ4.3ポイント下回っている。</li> <li>○基礎的な単語や単純な英文は理解できている。</li> <li>●長文の読解については細かい内容を理解できていない生徒がみられる。</li> <li>●教科書の本文の内容は、授業で説明したものは理解できるのだが、内容が異なる英文になると読むことに時間がかかり、内容を理解できない状況も散見される。授業で様々な英文を読ませることが今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文と関連するような題材を見つけ、初めて目にする文章でも苦手意識をもたずに自分の力だけで読んでいく練習をする。</li> <li>・短い文や生徒が興味をもてるような内容の英文を精選しながら、内容を正確に把握する力を育成する。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書くことに対する平均正答率は県と比べ4.7ポイント、市と比べ1.9ポイント上回っている。</li> <li>○正しい語順で英文を書く問題や、内容のつながりのある複数の文を英作文するというような問題での正答率が高かった。</li> <li>○語順を問う問題での正答率も高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面で自分を表現するような活動を設定していき、自己表現力を高めていけるような授業を行う。</li> <li>・主語と動詞の基本構造を使った英作文を行い、少しずつ単語を変えていながら、複雑な英文を書く力を育成する。</li> </ul>

# 宇都宮市立宝木中学校 第2学年 生徒質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。93.9% (県より6.8ポイント高い)
- 先生は学習のことについてほめてくれる。81.7% (県より9.9ポイント 宇都宮市よりも8.1ポイント高い)
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。52.2% (県よりも13.2ポイント 宇都宮市よりも11.9ポイント高い)
- クラスは発言しやすい雰囲気である。80.9% (宇都宮市よりも6.3ポイント高い)
- 家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。63.5% (県よりも6.0ポイント高い)
- 国語の学習が好き。81.4% (県よりも14.1ポイント 宇都宮市よりも13.9ポイント高い)
- 将来のために、保健体育は大切だと思う。84.3% (県よりも5.5ポイント高い)

上記のことが、ポイントの高い主な項目である。日常の生活や学習など学校生活をみていると、ほとんどの生徒は大きな問題を持ってたり、起こしたりすることもなく、比較的明るい学校生活を送っている。学級や教師との人間関係も良い方向に向いているように感じる。

家庭での過ごし方や保護者との関係、特に学習への取り組みも少しずつだがよくなってきている。学校生活の安定や向上心が今後も継続し、進展するように接していきたい。そのためにも、教師が全体と個に関して各種調査や教育相談、保護者との密な連絡など情報を得るとともに共有でき、活かせる体制をとっていく。

- 自分には、よいところがあると思う。62.6% (県よりも8.5ポイント 宇都宮市よりも10.0ポイント低い)
- 授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。75.4% (県よりも12.7ポイント 宇都宮市よりも10.4ポイント低い)
- 授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。44.3% (県よりも17.0ポイント 宇都宮市よりも13.8ポイント低い)
- 授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。61.7% (県よりも20.8ポイント 宇都宮市よりも13.8ポイント低い。)

質問紙の結果や日常の様子から自尊感情を高めることが必要であることがわかる。生徒の関りの中で、良い面をほめる・認めることが現学年には必要である。学級経営・学年経営の中で一人一役や活動の分担など工夫したり、行事や行動面で達成感達成感、善い行い等を意図して状況や場面設定をしていく。また、学習面に関してはまだ、苦手意識や自分ではできないと感じている生徒がいる。教科の好き嫌いもあるようなので、各教科での現状分析をし、克服にむけて工夫していくことと学習の取り組み方について、進路とも関わらせて、基本から再度指導し、実践させるようにする。その際、生徒にもPDC Aのサイクルに目を向けさせ、今日より明日への向上が大切であること粘り強く指導する。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な提示  ②効果的なノートの活用  ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫  ④話し合い活動の積極的な導入  ⑤「ふりかえり」活動の徹底	●授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている87.8% (県93.8%よりも6.0ポイント 宇都宮市91.5%よりも3.7ポイント低い)  ●授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。61.7% (県82.5%よりも20.8ポイント 宇都宮市75.5%よりも13.8ポイント低い。)  ●クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている73.9% (県79.9%よりも6.0ポイント 同じく 宇都宮市79.9%よりも6.0ポイント低い)  ●授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。75.4% (県よりも12.7ポイント 宇都宮市よりも10.4ポイント低い)  ●授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。44.3% (県61.3%よりも17.0ポイント 宇都宮市58.1よりも13.8ポイント低い)

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2) 家庭学習の習慣化 ①意欲や目的をもって取り組める宿題吟味、工夫  ②自主学習ノートの活用	●学校の宿題は、やりたくなる内容だ。34.8%(県42.2%よりも7.4ポイント、宇都宮市39.4%よりも4.6ポイント低い) ○家で、学校の宿題をしている。96.5%(県94.5%よりも2.0ポイント、宇都宮市94.7%よりも1.8ポイント高い)  ○家、で計画を立てて勉強をしている。67.0%(県63.0%よりも4.0ポイント、宇都宮市63.4%よりも3.6ポイント高い) ●家で、学校の授業の予習をしている。42.1%(県43.5%よりも1.4ポイント、宇都宮市43.8%よりも1.7ポイント低い) ●家で、学校の授業の復讐をしている。65.2%(A-D層24.2)(県71.5%よりも6.3ポイント、宇都宮市67.2%よりも2.0ポイント低い) ○家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。(県64.9%よりも4.7ポイント高い、宇都宮市65.9%よりも3.7ポイント高い)

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて ①「本時の目標(めあて、ねらい)」が確実に示されていない。  ②授業で使うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書かれている割合が低い。  ③生徒間の話し合い活動を通じて、考えを深めさせたり、広げさせたりする学習活動が十分でない。  ④授業における、生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。  ⑤学習内容の十分な振り返りが行われていない。	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示  ②効果的なノートの活用  ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫  ④話し合い活動の積極的な導入  ⑤「ふりかえり」活動の徹底	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示の習慣付けを行う。  ②教科担任による板書の工夫と、学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。  ③教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通じた、授業力の向上を図る。  ④各教科担任による話し合い活動の充実だけでなく、学級担任による学級活動の活性化も図る。  ⑤ワークシートやチェックテストなどを活用した、学習のねらいに即した振り返りを確実に実施する。
(2)家庭学習のより一層の充実に向けて ①「家の人と学習について話をしている」生徒の割合を、さらに増加させる。  ②予習、復習などの計画的な家庭学習を、より一層充実させる。  ③「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ、学習内容の効果的な定着を図った復讐を実施させる。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫  ②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛  ③家庭学習の仕方を明示、説明	①三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。  ②学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言やほめる指導を充実する。  ③教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実する。